

地域の居場所 創出・運営支援事業 報告レポート

2018年度に実施した事業

Part ① 居場所サミット in 神戸

Part ② 居場所コーディネーター養成講座

Part ③ 居場所利用者実態調査

Part ④ 居場所キャンペーン in 東灘区

自分らしくいられて、ホッとできる場所。

気軽に立ち寄れて、いろいろな人と交流できる場所。

ちょっとした相談ができて、生活上の困りごとが解決される場所。

当団体では、数年前からそんな地域の居場所の
創出・運営支援事業に取り組んできました。

今年度実施したのは4事業。概要・成果・課題をご報告します。

Part 1

居場所サミット in 神戸

— 魅力ある居場所運営のために、私たちが協働してできること —



概要

2016年度から実施している『居場所サミット in 神戸』。今回で3回目の開催となりました。年に一度、居場所運営者や関心のある人が集まり、共に学び、情報やノウハウを共有しています。今年度は3事例の報告のうち、区別でグループディスカッションを行い、より魅力ある居場所運営について皆で考えました。

開催日 2018年8月19日(日) 13:00～16:00(ブース展示12:00～)

開催場所 神戸市勤労会館 大ホール

参加者 86団体217名

連携先

共催: (公財)神戸いきいき勤労財団／生活協同組合コープこうべ
(公財)コープともしびボランティア振興財団／NPO法人しゃらく
認定NPO法人しみん基金・KOBE

協力: ネスレ日本(株)／(一財)神戸すまいまちづくり公社

後援: 神戸市、神戸市社会福祉協議会、神戸市医師会

1部

①神戸市より現状報告と問題提起

最初に、神戸市保健福祉局介護保険課より高齢者を取り巻く現状と「居場所づくり型一般介護予防事業補助金」についての説明がありました。続いて、神戸市子ども家庭局子ども青少年課より、子ども食堂や学習支援などの支援施策についての報告がありました。いずれも、現状の共有に加え、民間の活動に対する期待が語られました。

②事例報告

NPO法人コミュニティかりばの佐野正明さん、NPO法人インクルひろばの松岡喜久子さん、はっぴーの家ろっけんの首藤義敬さんの3名にお越しいただきました。現場の喜び・苦労とともに、どのようにアイデアを形にしてきたかといったプロセスもお話いただきました。コーディネーターは関西学院大学の大和三重先生にお願いしました。



◎佐野正明さん NPO法人コミュニティかりば
西区狩場台でコミュニティスペースを運営。有償の生活支援サービスも展開中。

◎松岡喜久子さん NPO法人インクルひろば
北区西鈴蘭台で公団の空き店舗を活用し常設のカフェを運営。週1で子ども食堂も。

◎首藤義敬さん 株式会社HAPPY／はっぴーの家ろっけん
長田区二葉町で赤ちゃんからお年寄りまでが集うサービス付高齢者向け住宅を運営。

2部

区別ワークショップ

『子どもから高齢者まで、新しい居場所利用者を増やすために、私たちが協働してできること』をテーマに以下のようなアイデアをまとめました。

東灘区

居場所情報を身近な場所で広めるために、今日集まった団体が中心に、情報ポストを1団体10ヶ所開拓して設置する。(病院・銀行・コンビニ・パチンコ店など)

灘区

灘区内の居場所が相互理解するために、灘区社協や生きがい活動ステーションが協力し、灘区版「居場所サミット」を行う。顔の見える関係づくりからはじめる。

中央区

中央区内の居場所運営者が、お互いを知る場を作る！中央区社協とも連携し、定期的な情報交換や、居場所見学ツアーを実施するところからはじめたい。

兵庫区

「居場所＝情報が集まる場所」であり、居場所の存在を知らせる機会をつくるのが大切。新しい居場所候補もあり、兵庫区社協とも力を合わせて行いたい。

長田区

居場所同士が協働する前段階として、「まず町のことを知る」「顔見知りを増やす」ことが必要。また若者の主催者も多く、お金や人が回っていく中心としたい。

北区

誰でも参加しやすい「食べる」「飲む」を切り口に、みんなの会話がはずむような仕掛けを、まずは現在の居場所で工夫することからはじめたい。

須磨区

各居場所見学イベントツアー(妙法寺の里山など)でお互いに知り合うことが必要。須磨区内の居場所ラリーの開催などで横のつながりを活性化させていく。

垂水区

ふれあいのまちづくり協議会と民間居場所の共同で、高齢者が子どもの世話をする居場所をつくりたい。「ひとりにしない」を合言葉にすすめていく。

西区

居場所運営者同士が、地域で「三世代交流イベント」を開催する。真ん中世代の20～40歳代と一緒に巻き込むことで、上の世代や下の世代ともつながることができる。



成果と課題

区別の各グループから具体的な行動目標が提案されたのが特徴でした。(東灘区のアイデアは少し形を変えて実現。P6 参照)

又、居場所運営者同士のネットワークが構築され、情報共有もすすみました。「明日への活力になった」という意見もあり、モチベーションの向上にも寄与できたようです。次年度以降も開催を希望する声が多いので

すが、情報共有から一歩進んで、「+防災」、「+生活支援」などプログラムの拡充につながるよう、サミットの内容もブラッシュアップが必要です。また、現在は主に助成金を財源としていますが、企業協賛などの新たな枠組みについても可能性を探っていきたいと思います。

Part 2

居場所コーディネーター養成講座

— 実践的プログラムで立ち上げをサポート —

概要

居場所の立ち上げをサポートするために、「一般コース」と「お寺で居場所コース」を設定しました。

事例紹介、視察、ロールプレイなど、実践的なプログラムで新たな立ち上げをサポートしました。

開催日 2019年1月～3月

開催場所 まちづくりスポット神戸／兵庫勤労市民センター／満福寺

参加者 33名（一般コース19名、お寺で居場所コース14名）

連携先

まちづくりスポット神戸（大和リース(株)とCS神戸が協働運営）
生きがい活動ステーション（公財神戸いきいき勤労財団とCS神戸が協働運営）
時宗満福寺

一般コース

これから居場所を立ち上げたい方、既存の居場所の担い手としてサポートしたい方などにご参加いただきました。最終日には神戸すまいまちづくり公社の方にも登壇いただき、空き家の地域利活用についての仕組みもご説明いただきました。



参加者の声

- 近隣地域に同じ志を持っている方々と、多くの学びや気付きを共有でき、有益でした。具体的なアクションにつなげたいです。
- 全体として、講座にこまやかな配慮を感じられ、とても良かったです。



	日時	テーマ
第1回	1月28日(月) 10:00～12:30	〔講座とゲストトーク〕 「ミニ講座」 今、居場所が必要なワケ&事例紹介 「ゲストトーク」 居場所をやっている人に聞いてみよう！
第2回	2月4日(月) 10:00～12:30	〔講座とロールプレイ〕 「居場所におけるコミュニケーションのポイント」
第3回	2月5日(火)～ 2月15日(金)	〔居場所見学〕 「地域の居場所に行ってみよう」
第4回	2月18日(月) 10:00～12:30	〔講座とグループワーク〕 「居場所運営のマネジメント」 ～ヒト、おカネ、広報のポイント～

お寺で居場所コース

神戸市兵庫区にある「時宗 満福寺」とのコラボレーション企画として実施しました。座学に加えて、1日限定で実際に居場所を開催し、広報・プログラム・お金など、マネジメントを実践的に学びました。



参加者の声

- 実際に満福寺さんでの実践もでき、とても充実したプログラムでした。プログラム全体の内容・流れがスムーズで、必要なことが含まれていて、とても良かったです。
- 参加者の方とお知り合いになれ、人柄を知ることができた。今後の立ち上げまでの流れも知ることができました。

	日時	テーマ
第1回	1月30日(水) 13:30～16:00	〔講座とゲストトーク〕 「ミニ講座」 今、居場所が必要なワケ&事例紹介 「ゲストトーク」 居場所をやっている人に聞いてみよう！
第2回	2月6日(水) 13:30～16:00	〔講座と演習〕 「居場所におけるコミュニケーションのポイント」 ● ロールプレイ
第3回	2月13日(水)～ 13:30～16:00	〔講座と準備〕 ● 満福寺見学 ● 次回の「居場所をやってみよう!」の準備
第4回	2月27日(水) 13:30～16:00	〔実習〕 「やってみよう! 地域の居場所 in 満福寺」
第5回	3月6日(水) 13:30～16:00	〔講座とグループワーク〕 「居場所運営のマネジメント」 ～ヒト、おカネ、広報のポイント～

成果と課題

「一般コース」では、立ち上げを希望される方に加えて、行政書士や介護施設の職員の方にも受講いただいたことで、地域資源のマッチングがすすみました。「お寺で居場所コース」では2019年6月からの立ち上げを目指して現在準備中です。講座や昨年度からの継続相談な

どを通じて、2018年度中には8カ所の居場所が立ち上がり、6ヶ所程度も立ち上げに向け準備中です。区社会福祉協議会や地域包括支援センター等との有機的な連携についてはまだ模索中が続いています。

Part 3

居場所利用者実態調査

— 504名の回答から見た居場所の意義と効果 —

概要

居場所の意義や効果を利用者の視点で明らかにしようと試みたのが、今回の利用者実態調査です。

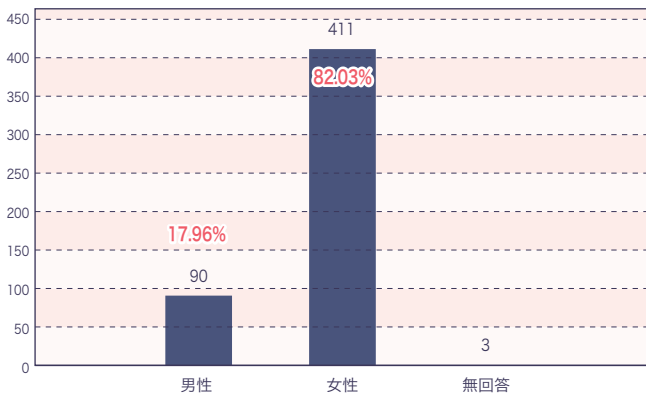
神戸市内で月2回以上開催している居場所24カ所の皆さんにご協力いただき、合計504名の方にアンケート調査を実施しました。抜粋版をご紹介します。

期 間	2018年8月～9月
対 象	神戸市内で月2回以上の居場所を利用している方504名

連 携 先
兵庫県立大学政策科学研究所NPO研究連携センター
(CS神戸との共同研究として実施)
市内の居場所24カ所

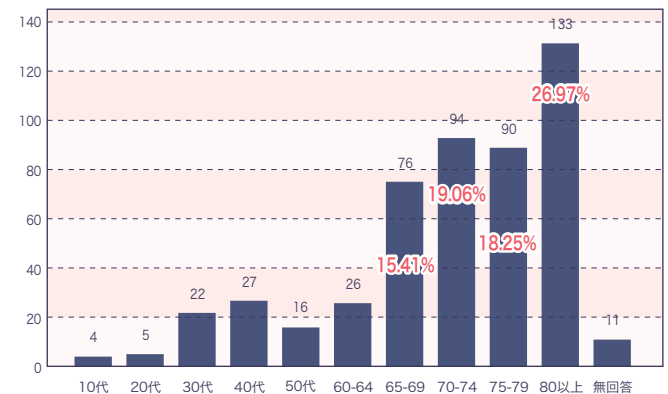
①性別

回答者の8割強が女性で、2割強が男性でした。多くの居場所で「男性がなかなか出てきてくれない」という声を聞きますが、今回の調査でも男性参加者の少なさが浮き彫りになりました。



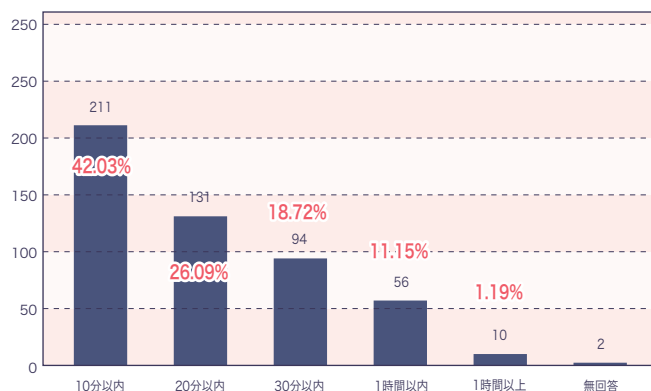
②回答者の年齢

回答者の63%が70代以上でした。若者や壮年層の利用もありますが、高齢者の方に多く利用されていました。多世代交流を促進するためには一工夫が必要ようです。



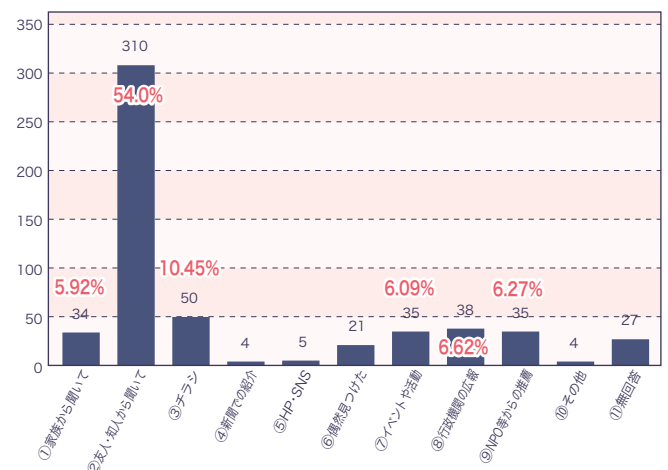
③居場所までの所要時間

10分以内の人が42%で最も多く、30分以内になると86%に達しました。地理的に近い居場所が多く利用されていることがわかりました。



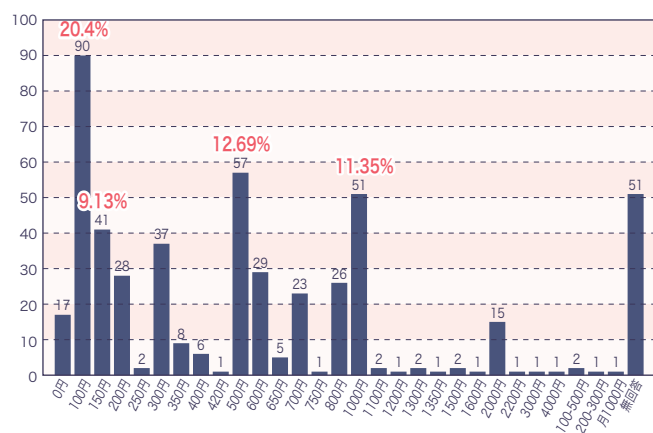
④居場所を利用したきっかけ

半数以上が「友人・知人から聞いて」と回答しており、口コミによって広がっていることがわかりました。回答項目数が平均1.20個となり、複数の要因が重なり実際の利用に至るようです。



⑤参加1回に使う金額

100 円が最も多く、次いで 500 円、1000 円となりました。一人当たりの平均使用額は 505 円、中央値は 400 円でした（227 番目）。1 回あたりの居場所での使用額合計は 226,920 円でした。



Part 4

居場所キャンペーン in 東灘区

— “きてみてラック”で共同広報 —

概要

居場所にとって広報は重要な課題ですが、個々の居場所が取り組むには労力や資金にも限界があります。そこで、「居場所サミット in 神戸」(P.1参照)で集まった東灘区内の居場所運営者等11団体が検討会を立ち上げ「きてみてラック」を考案。東灘区内の店舗や民間事業所に「情報パートナー」として無償設置を依頼し、22カ所にまで広げることができました。

期 間 2019年1月～2月

連 携 先 東灘区内の民間事業所22ヶ所
(病院、薬局、金融機関、スーパー、神社など)

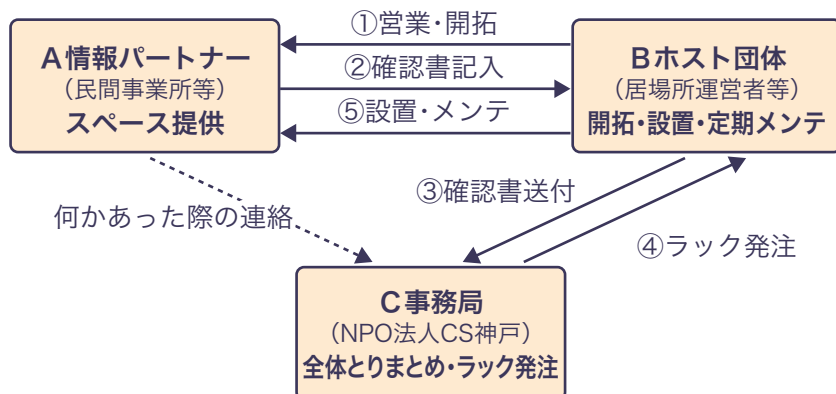
共同企画

NPO法人東灘地域助け合いネットワーク、NPO法人きょうどうのわろっこ医療生協、東神戸医療互助組合、ライフシフト65 東灘こどもカフェ、チャレサボくら、生活協同組合コープこうべ 東灘区社会福祉協議会、地域包括支援センター



検討会の様子

「きてみてラック」の仕組み



設置の様子

(日本調剤六甲アイランド薬局)



★ポイント★
設置先の情報も
配架できる

◎設置場所(2019年3月10日現在)

病 院

東神戸病院／うはらクリニック
にじいるクリニック
御影ごきげんクリニック／杉田整骨院

薬 局

日本調剤 六甲アイランド薬局・住吉本町薬局
なの花薬局神戸住吉店・六甲アイランド向洋町店
阪神調剤薬局向洋町店／ヒロセ薬局

スーパ－

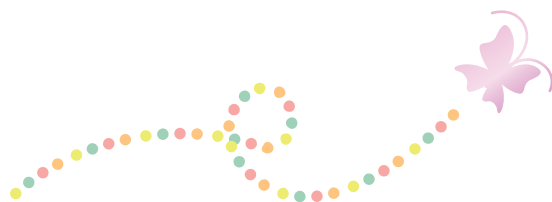
コープこうべ甲南店／甲南食彩館
トーホーストア六甲道駅前店

その他

神戸信用金庫東灘支店(金融機関)
ブランカ神戸岡本店(洋菓子)
久保釣具店(釣り具)、ing住吉(美容院)
弓弦羽神社(神社)、うはらハウス(高齢者施設)
東灘組合員センター甲南(医療生協施設)

成果と課題

情報パートナーの民間事業所にとっては自社 PR の場になるとともに地域貢献の見える化ができる、ホスト団体の各居場所にとっては新たな住民層にアプローチできる、地域住民にとっては公的機関だけではなく、日常生活の中で居場所情報を得る機会が増える、といった三方良しの共同広報プロジェクト。“みんなの課題をみんなで解決する”仕組みを、連携して考案できたのは大きな成果でした。調査でも明らかになったように居場所の広報チャンネルはアナログによるところが大きく、最も多い参加のきっかけは「口コミ」ですが、今後は IoT の有効活用についても検討する必要性を感じています。



認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)

〒658-0058 神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104

TEL.078-841-0310 FAX.078-841-0312

E-mail : office@cskobe.com URL : <http://www.cskobe.com>